

## <これまでの成果>

- 「30分以上読書する児童生徒の割合」の増加
  - 小6 : H21年度全国調査31.0% ⇒ H24年度府調査40.9%
  - 中3 : H21年度19.9% ⇒ H24年度31.2%
- 研究校や推進校において、来館者・貸出冊数の増加、授業における学校図書館の活用等の増加

## <課題>

- 「30分以上読書する児童生徒の割合」が府平均より低い
  - 小6 : 堺40.9% ⇔府44.1%
  - 中3 : 堺31.2% ⇔府33.4%（平成24年度府調査より）
- 一方で、学力と読書量の相関においては、本を読む習慣のある子どもの学力は高いという傾向が見られる。（学びの診断より）



## <国の動向>

平成24年度からの学校図書館関係の地方交付税措置状況

- 学校図書館図書標準の達成（約200億円×5ヵ年）
- 学校図書館への新聞1紙配備（約15億円×5ヵ年）
- 学校図書館担当職員の配置（150億 1時間1千円×1日6時間×1周5日×1年35週）

## 学校図書館の活性化（35,691千円）

### ◆学校図書館サポーターの全校配置（33,175千円）

- 【研究校】: H24 1中学校区 ⇒ H25 1中学校区 <非常勤職員>（10,999千円）
- 【推進校】: H24 19中学校区 ⇒ H25 42中学校区 <学校図書館サポーター>（22,176千円）

### ◆区別情報交換会

- ・情報共有
- ・研修

### ◆読書ノートの配付（2,016千円）

小学生 ⇒ 中学生に拡充

### ◆学校図書館サポーターへのスキルアップ研修（500千円）

学校図書館の  
利便性の向上  
読書ノートの活用

読書量の  
増加

総合的な  
学力向上

## 市立図書館との連携

- ・読書ノート100冊達成の認定
- ・おすすめブックリストの提供
- ・情報提供（区別情報交換会）
- ・スキルアップ研修での講師 など